

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773600061		
法人名	医療法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム オアシス		
所在地	沖縄県島尻郡南風原町新川452-1		
自己評価作成日	平成22年 1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.joho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4773600061&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成22年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、併設病院の敷地内にあり、室内は居住空間が広く採光も良いため、明るく開放的で家庭的な空間を保っています。台所やリビングが中央に位置しているため、入居者の方が手伝いや活動等それぞれが思い通りに過ごせており職員の観察も行き届きやすく、対応も迅速にできています。併設である精神科病院に、認知症の専門医がいるため入居者の精神、健康管理が充実しており、認知症ケアへの対応など気軽に相談、助言、指示をもらえるなど手厚い介護が受けられるのが特徴です。また、女性が多い中で入居者同士や職員とも気心が知れており、信頼関係も厚くそれぞれが自由にゆったりと過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は建物2階部分にあり各居室から隣接するゴルフレンジの緑が望める。入居者は毎朝のラジオ体操や掃除、週3回の買い物等へ元気に参加している。入居者は手間と時間をかけた食事が大好きで毎食の完食はもちろん、職員に料理の味付けや食材の硬さについて評価をする等高い関心を寄せている。職員も食事支援に取り組み、法人栄養管理委員会の意見を参考に献立を作成している。介護計画の見直しに入居者や家族が参加できるよう、ホーム便りを利用し事前に見直し時期を知らせ日程調整できるよう活かしている。全体ミーティングや日常の業務内でホーム内環境整備について話し合い、入居者の安心・安全に反映させる取り組みがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ、「共生」「信頼」「永続」をテーマに事業所独自の理念を作り、常に職員全員が理念を共有して実践に繋げている。	理念の共有については毎日の朝のミーティングで唱和し理解に努めている。また、月1回の法人全体会(病院・介護事業所等)に於いても唱和している。	地域密着型サービスへの移行に伴い、開設当初からの理念が現状の支援体制に合っているか職員間で検討されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を招いての病院祭、東新川合同敬老会、盆踊りなど、行事を通して地域の方々との交流を深めており、地域住民の参加も多々ある。	地域にある還元施設へ月1~2回出かけ足湯を楽しんだり、そこで知人等と出会った場合は交流を深めている。自治会の合同敬老会や盆踊り等にも参加している。また法人内で合同で開催される病院祭へ地域の参加をお願いする等交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催における病院祭行事などにおいて、健康講話等の講演の中で、地域の人々にも認知症の理解をしていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、ホームでの運営状況、活動報告、日々の暮らしぶり等情報提供を行い、各関係者が活発に、評価、助言、要望、意見交換などを行っておりサービスの向上に向けて話し合いが持たれている。	運営推進会議はほぼ2ヶ月に1回定期に開催され、構成メンバーは入居者や家族、自治会長、行政担当者等となっているが、利用者や家族は交代して参加している。会議では、入居状況や家族からの意見、職員研修、人事異動、行事、外部評価等報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、町の担当課とは連絡、相談が行える環境であり、対象入居者情報の確保に向けて情報交換を行っている。	行政窓口と入居者募集の調整で情報交換したり、町や社会福祉協議会、地域包括支援センター等の介護関係行事の資料を収集し、入居者や家族に情報提供する等連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者それぞれの、その日の気分や状態に応じて、自由な空間が保てるよう日中は鍵を開錠している。また、安全性を考慮して、玄関にセンサーを取り付けている。	身体拘束に関する研修を職員全員に受講させ、身体拘束への理解を深めている。入居者の行動を把握し、例えば帰宅願望の意向が強く見られる場合には自宅訪問して落ち着いてもらう等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院外における研修への参加及び法人内での勉強会への参加を行い、法令施行に関する情報提供を実施する事で理解を深め、自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会などへの参加を行い、権利擁護に関する制度の理解や必要性について学ぶ機会を持っている。今後も全職員が共通理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者、担当相談員が、入居者・家族に重要事項説明書と利用契約書をもとに説明を行い、文書により同意を得ているが不安や疑問点が解消できるよう十分な時間を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱の設置を行い対応しているが面会時には気軽に話せるような雰囲気作りに努め、意見、要望、苦情など引き出せるようにしている。	入居者や家族の意向や要望は、運営推進会議や面会時を利用し把握に努めている。また家族アンケートを実施し、家族の意見を汲みあげ運営に反映されるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや日々の業務内に於いて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。必要に応じて業務改善を行ったり、環境整備のための物品購入など反映できるようにしている。	職員の意見や要望は管理者が法人の介護保険検討委員会へ報告し、業務改善や環境整備等に反映している。環境整備として、トイレ内にある物品収納庫へのカーテン取り付けや座席の配置等がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理事における勤務等現場状況の把握が行われており、介護職員処遇改善交付金の利用による処遇改善の実施も行われている。各環境整備等についても、伺い書等で随時検討していただくことも可能。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に関しては法人内外の研修や勉強会などを受講できる機会を確保している。研修時の勤務調整を行い各種研修への参加を了解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加入しており、管理者会議や研修会などを通して交流を図り、サービスの質の向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安が大きいため、出来るだけ本人の困っていること、不安や要望にゆっくり耳を傾け、声掛けを多く持つようにしたり、寄り添いコミュニケーションを密に取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、実態調査、事前面談により、家族の抱えている悩みや不安などを聞き、相談に乗ったり受け止めたり、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前には、本人や家族の求めていること、必要としていることを充分把握し見極め、必要とされるサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする共同生活の一員として、入居者の残存能力を活かし、出来ることはやってもらっている。時には支え、励まし、喜びを分かち合い関係作りが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの本人と家族との絆を大切にし、常に家族とは本人の暮らしぶりを報告、情報を共有し、家族の気持ちも汲み取りながら本人を支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、馴染みの美容院に出かけたり、年末には、年賀ハガキを書いたり関係が途切れないよう支援している。	ほとんどの入居者が家族と毎月1回馴染みの理容、美容室へ出かけている。また毎週教会へ礼拝に出かける入居者や、大好きなゴルフを近くの施設で継続して楽しめるよう支援している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等のおやつ作りや、日々の日課活動を通して(洗濯物たみや食器洗い等)入居者同士が関わり合い、困ったときには助け合う等、自然に協力関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、病院への見舞いや面会などへ行きこれまでの本人との思い出を語ったり、声掛けしたり関係が保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや意向が表出できるよう、言葉や表情、仕草など観察を行い、素早くキャッチして、気持ちや汲み取れるようにしている。困難な場合は、家族とも相談しながら様々な角度から本人本意で考えている。	入居者の目や表情を見ながらゆっくり話を聴き、思いや意向の把握に努めている。毎朝10時のお茶の時間に新聞記事から話題を見つけ、入居者との会話を増やし思いや意向が汲み取れるように新聞の音読をおこなう等工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査により、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握し入居後も日常会話からさり気なく聞き出したり、家族から情報提供してもらい把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの健康状態、心身状態、有する能力を十分把握出来るよう、職員全員、業務に入る前には必ず記録物に目を通すようにしている。また、暮らし方は日々変化があるものだと考え、入居者一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者に担当職員を配置し、担当職員と計画作成者を中心に介護計画を作成している。その際には、本人や家族が求めていること、ニーズに即したケアのあり方など他職員の意見も反映しながら計画を行っている。	モニタリングで把握した入居者の意向やニーズにそった計画が作成されている。サービス担当者会議を開催し入居者や家族の意見、職員からの情報を共有しながら、入居者自身の意向が反映されているかサービス内容を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や、経過表に日々の様子やケアの実践状況を記載し、気づきや工夫などは申し送りや伝言ノートで情報の共有を行い、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々状況に応じて、関係者で話し合いを持ち必要な支援があれば看護、介護部門を活用し柔軟な体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、職場体験の学生を受け入れたり、自治会長からの提案による還元施設の活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれが通い慣れた信頼できる医療機関があり、必要時に適切な医療が受けられるよう支援。また、定期受診時の日程管理を行い、家族への連絡及びスムーズな受診が行えるよう支援している。	入居者のかかりつけ医受診は家族が付き添い、職員は状態に応じて情報提供をしたり緊急時対応の支援をしている。ドライブ等で外出する際にもかかりつけ医の連絡先等携帯し、入居者の状態変化や緊急時に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整えており、週2回訪問看護による健康状態、心身状態の把握、管理をしている。状態の変化があった場合は、相談、助言、指示を仰ぐことが可能であり24時間入居者の健康管理、看護支援体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は、管理者または職員が病院へ出向いたり、情報提供書を作成し迅速な医療が受けられるようにしている。また、早期退院に向けて医療機関関係者との情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについては、医療連携における指針をもとに対応している。	ホームとして重度化した場合の指針を整備し、入居者や家族に説明している。入居者の状態に応じた医療連携も家族と話し合っ取り組んでいる。職員は重度化について法人内研修で学んだり、ミーティングで情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による救命救急講習を受講し、救命処置やAED操作訓練を行った。スタッフ全員が緊急時に対応できる技術を身につけるよう今後も受講して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施。日中、夜間を想定し、実際に入居者にも実践してもらい、職員は消火器や消火栓の使い方も実践した。	総合消防訓練が併設の事業所合同で実施される。非難訓練(日中、夜間)は7月に、総合消防訓練は11月に実施された。災害時の緊急通報体制は一体化され、母体法人の敷地内にある全施設へ通報される仕組みとなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度、表情に気を付けて対応している。また、個人情報の記録など取り扱いには十分気を付けている。	入居者への声かけは、時には明るく、時には入居者の耳元で優しく、一人ひとりを尊重して対応している。入居者の口ずさむ歌で離れていても居場所が確認できる等入居者の特徴を把握している。入居者に関する個人台帳は事務室で保管され、個人情報の保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時にはゆっくりと時間をかけたり、理解が出来るよう説明を繰り返し行うこともある。自分で選んでもらったり、選ぶ場面を極力作るよう努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など、入居者一人ひとりのペースを大切に、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や着替えの際には、本人に好みの服を選んでもらったり、化粧をしたり、それぞれがこだわりや個性を大切に身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ入居者の要望を取り入れながら、献立を考えており、食材準備や片づけにおいても出来る力を見出しながら見守ったり一緒に行ったりしている。	入居はそれぞれ決まった席でゆったりした雰囲気の中、職員の調理した食事を満喫している。入居者は食材のつくろいや皮むき、食器洗い、お膳拭き、食後の片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量チェック表にて、それぞれの摂取量を記載し、栄養過多や減少がないようきちんと把握している。午前、午後とも水分補給をこまめに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄など、自分の力で出来るよう声掛けしたり、誘導するなど本人の状態に応じて対応している。週1回～適宜ポリドントにて義歯洗浄。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、個々の排泄パターンを把握している。出来るだけ失禁を防ぎ、トイレにて排泄が出来るよう定時及び随時、声掛け、誘導、必要時介助を行っている。	入居者の排泄パターンを把握し、入居者の様子や状態を観察しながら誘導や口腔ケア後の声かけ等、利用者が尿意を取り戻せるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な野菜を毎日献立に取り入れたり、午前、午後ともこまめに水分補給を促している。毎朝、ラジオ体操を取り入れ身体を動かす支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常は午前中に入浴を行っているが、本人の健康状態や希望、行事や外出等で時間をずらしたり、その都度対応できるようには心掛けている。	入浴は隔日としながら、毎朝ラジオ体操等の活動後には入居者の状態や希望に考慮し支援している。入浴はシャワーが主で足浴を希望される入居者もいる。浴室内と脱衣所の温度差が入居者の体調に影響がないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、寝付けない方は話をしたり、共に過ごす時間を作り安心感が持てるよう支援している。また、日中も本人の生活習慣や希望により、休息や昼寝の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備をする際は、お薬説明書により薬の処方薬、効能、副作用などを確認し、正しく服用できるよう注意深く投薬している。薬の変更時は、記録、申し送りを行い、服用後は症状の変化など観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝いや掃除、洗濯物たたみ等、それぞれが好きなことや出来ることを役割、楽しみとして行っている。また、魚の世話好きな方は、毎日餌やりを欠かさず、日課としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天気が良い日には、近くの還元施設まで散歩に出掛けたり、買い物やドライブなど外出支援を行っている。	ゴルフをしていた入居者とゴルフを隣接するゴルフレンジと一緒にゴルフをしたり、近くの商店やスーパーへ買い物に出かけている。入居者の意向を考慮してドライブや買い物等の帰りに自宅を訪問し、満足が得られるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向を伺いながら、相談、確認し、お金を所持してもらっている。買い物時には好きな物を購入してもらったり、力に応じて支払い時には見守り、支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には、電話の利用をしたり介助を行っている。また、年末には自筆で年賀ハガキを書いており、要望に添えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房の温度調節やテレビ、音楽の音量調整等その都度、入居者に確認をしたり、意見や反応などを見ながら、居心地よく過ごせるよう空間作りをしている。	ホーム内は廊下を中心に居室やトイレ等が配置されており、明るくゆったりした暖かさが感じられる。長い廊下の手すりを入居者がリハビリに活用したり、二重の扉で利用者のプライバシーと安全が確保された浴室、リビングの奥に畳間もあり入居者がゆったりくつろげる様にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好みにより一人で過ごしたり、ゆっくりくつろげるようリビングにはソファを置き、畳間にはテーブルを置いて、食堂ではみんなでおしゃべりをしたりテレビを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの手工芸を飾ったり、家族や思い出の写真の置いたり、個々の愛着のある品々を持ち込んで頂き居心地良く過ごせるよう工夫している。	窓から緑が楽しめる居室には、入居者の家族や自宅の写真、好みの物が持ち込まれている。また居室内に洗面台、杖置きや椅子を配置する等工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、各要所には手すりの設置があり、ホーム全体の空間も大きく自立した生活が送れるよう支援している。		